

SPring-8 ユーザー協同体研究会 利用者の動向調査報告書 (H28 年度版)

研究会名：放射光構造生物学研究会

日 時：2016年6月10日 9:30-12:00

場 所：九州大学馬出病院キャンパス 総合研究棟 105号室

出席者：(別途作成する議事録と合わせてください。)

計 22 名

大嶋浩介、神田大輔、嶋田睦、田口裕也、中島崇(九州大)、栗栖源嗣、中川敦史(大阪大)、陳明皓(北海道大)、沼本修孝(東京医科歯科大)、山口宏(関西学院大)、杉島正一(久留米大)、中村照也(熊本大)、河合聡人(崇城大)、村木則文(分子研)、関口雄介(Meiji Seika ファルマ)、杉本宏、引間孝明、山下恵太郎(理研)、河村高志、奥村英夫、Nipawan Nuemket、熊坂崇(JASRI)

1) 新分野・新領域に関する研究開発ニーズについて

・新たな分野、領域における放射光利用を開拓するために、SPring-8において実施すべき利用技術開発に関する意見など

1. 試料の状態をモニターしながら測定することが重要になりつつある。回折実験の時に使える顕微分光装置の高度化に期待したい。また、測定精度を高めるための結晶加工機との連携は望ましい。

2. Serial Synchrotron Crystallography による微小結晶の解析技術の進展に期待する。ぜひとも、多くのユーザーが使えるように、開発を進めていただきたい。

3. 溶液散乱ビームラインで行われている SEC-SAXS 法の利用により、結晶化が難しい試料の構造生物学研究が進展することを期待したい。測定や解析の効率化高精度化をさらに進めることを期待する。MX ビームラインとの連携もお願いしたい。

2) 研究開発成果の展開について

・SPring-8 を利用して得られた成果を基盤とした新技術の開発や成果波及を促進するための取り組みに関する意見など

1. 講習会などを開催して、技術の普及に努めていただきたい。

3) SPring-8次期計画に関する事項

・ SPring-8 次期計画において期待される利用技術の開拓や科学分野創成に関する意見など

1. 微小結晶や高難度結晶化試料の解析が進むことが期待されるが、光源の高度化に見合った検出器の準備が重要だと思われる。こうした取り組みに期待したい。

(研究会で議論した該当事項のみご記載ください。各研究分野やビームラインの利用における最新状況や昨年度の議論からの発展的な内容や個々の解決すべき課題の詳細についてご議論いただいたことを報告書に記載ください。)